

1, 概要

(1) 調査の目的

本調査では子供たちの、「学力の伸び」を測ることができる「教科に関する調査」、学習に対する意欲や学習方法、さらに家庭での生活習慣等に関する「質問紙調査」のほかに、各教育委員会や各学校の取組についての「質問紙調査」も実施しています。

「学力の伸び」は、子供たちの1年間の学習成果であるとともに、教育委員会や学校の取組の成果でもあります。本調査で示す、子供の「学力の伸び」と「教育委員会や学校の取組の変化」の関係を検証することで、今まで以上に取組の効果を確かめることができると考えています。今年度はタブレット端末等を活用した調査（CBT=Computer Based Testing：タブレット端末等を使用した調査）を県内全域で実施しました。この方法で調査を行うことにより、これまで紙で実施してきた調査（PBT=Paper Based Testing：紙による調査）以上に児童・生徒の学びの状況を詳細に把握し、教師の指導方法の工夫・改善や児童・生徒一人一人の学力向上につなげてまいります。（埼玉県教育委員会HPより）

(2) 実施日・実施内容

○令和6年5月14日（火）～16日（木）

○県内の公立小・中学校（さいたま市を除く）の小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒

○教科に関する調査 国語、算数 出題数は各学年26～40題（問題形式は選択肢・短答・記述）

○質問紙調査 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

2, 実施教科における本校の学力の伸びの状況

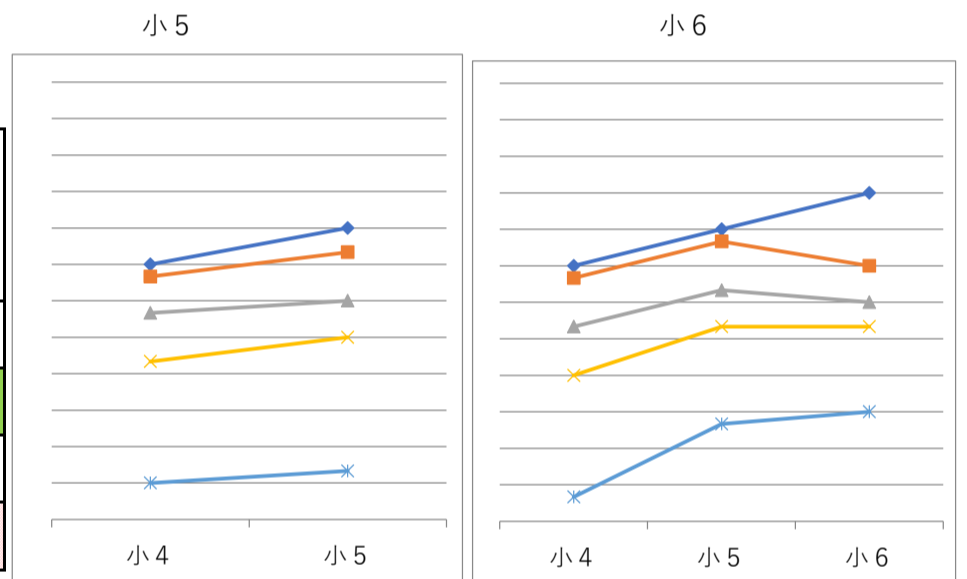
(1) 国語

埼玉県の平均より上

埼玉県の平均より下

※4年生は今年度が最初なので伸びの状況はありません

		学力を伸ばした児童生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合 (%)	学力の伸び率 (R6学力レベルとR5学力レベルの差の平均)
5年国語	埼玉県	67.0	33.0	1.0
	南小学校	64.0	36.0	2.0
6年国語	埼玉県	46.8	53.2	0.0
	南小学校	38.5	61.5	-1.0



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

国語結果（分析）

4年生（平均正答率は、狭山市より高く、学力レベルは埼玉県とほぼ同レベルである。）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、30問中10問であった。
- ・正答率が高かった問題は、前半に集中しており、後半に行くほど正答率が下がり無答も多くなっている。
- ・「指示語の示す内容を文中から書き抜く」「被修飾語を選択する」問題では、県平均より10%以上よかった。これは、日常からの読書の習慣や、授業「こそあど言葉をつかおう」で丁寧な指導により理解を深められたことが考えられる。正答率が低かった問題は「物語の登場人物の言動として、あてはまる言葉を文中から書きぬく」や「同訓異字の中から文脈に合うものを選択する」などで、県平均より10%以下であった。全体を俯瞰して読ませる・場面を比較して読ませる等の工夫が必要である。根拠となる叙述を自力で見つけられない児童への手立ても工夫したい。漢字の習得にも力を入れたい。

5年生（平均正答率は、狭山市・埼玉県より高かった。学力の伸び率が、狭山市・埼玉県より高かった。）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中22問であった。
- ・正答率が特に高かった問題は、「同訓異字の中から文脈に合うものを選択する」（正答率100%）や「被修飾語を選択する」「漢字辞典の「総画さくいん」で調べるときに出てくる順に漢字を並べる」などの問題で、県平均より15%以上であった。国語の学習やその他の学習の際の辞書の活用が多くあったと考えられる。
- ・正答率が低かった問題は、「日付、署名、宛て名などの手紙の構成要素を、適切な位置に並び替える」で、県平均より6%以下であった。手紙やはがきを書く習慣が乏しくなったことで、学習だけでは不十分であったといえる。

6年生（平均正答率は、狭山市・埼玉県より低く、学力レベルは狭山市と同レベルであった。狭山市6-A 本校 6-A）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中11問であった。
- ・正答率が高かった問題は、「いろいろな意味を持つ漢字の中で同じ意味で使われている言葉を選択する」問題や「辞書の使い方として適切になるように語を選択する」などの問題で、県平均より4%以上であった。漢字の習得に力を入れた結果と考えられる。
- ・正答率が低かった問題は、「文の主語を抜き出す」や「文章の表現について、同義の表現を文中から抜き出す」などの問題で、県平均より15%以下であった。日常から読書の冊数が少なく、読解力に課題がある。読書や要約する学習などが不十分であったと思われる。

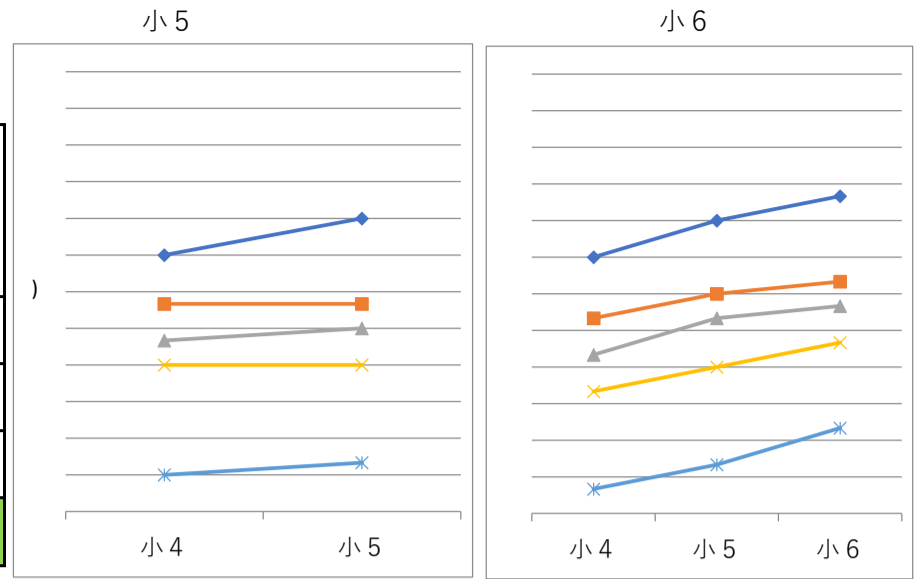
(2) 算数

埼玉県平均より上

埼玉県平均より下

※4年生は今年度が最初なので伸びの状況はありません

		学力を伸ばした児童生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合 (%)	学力の伸び率 (R5学力レベルとR4学力レベルの差の平均)
5年算数	埼玉県	56.1	43.9	1.0
	南小学校	53.9	46.1	1.0
6年算数	埼玉県	54.8	45.2	1.0
	南小学校	64.6	35.4	2.0



算数結果 (分析)

4年生 (平均正答率は、狭山市・埼玉県よりやや低かった。学力レベルは狭山市とほぼ同じレベル。)

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中7問であった。
- ・正答率が高かった問題は、「角の大きさが大きい順に並べ替える」や「折り紙を折ってから切って開くと正三角形ができることを答える。」(動画を使用した問題)であった。県平均より7%以上であった。視覚的な指導が効果的であった。正答率が低かった問題は、「小数のひき算」「kgのみで表された重さをgのみで表したものを選ぶ」などで、県平均より10%以下であった。これは長さや重さなどのイメージがつかめていないと考えられる。また、根気よく計算練習に取り組むことが大切である。

5年生 (平均正答率、学力レベルともに、狭山市・埼玉県より高かった。学力を伸ばした児童の割合は、埼玉県より低かった。)

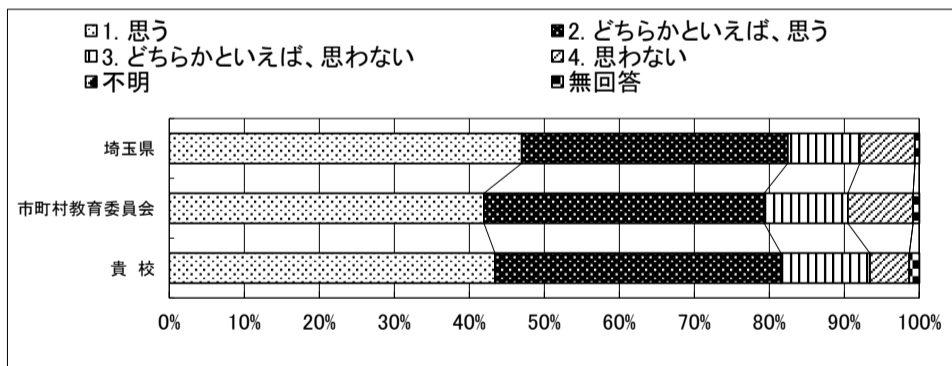
- ・正答率で県平均より高かった問題は、32問中19問であった。
- ・正答率が高かった問題は、「()を使った計算をする」や「ボールの数と、全体の重さの関係を記号を用いた式で表す」などで、県平均より15%以上であった。正答率が低かった問題は、「2種類の高さの違う箱を同じ数積んでいったとき、ある個数ずつ積んだときにどちらが何cm高くなっているか説明する」などで、県平均の10%以下であった。他の「変化と関係」に関する問題は全て正答率が高いことを考えると、最後の問題であったため十分に考える時間がとれなかった可能性がある。

6年生 (平均正答率、学力を伸ばした児童の割合、共に狭山市・埼玉県より高かった。)

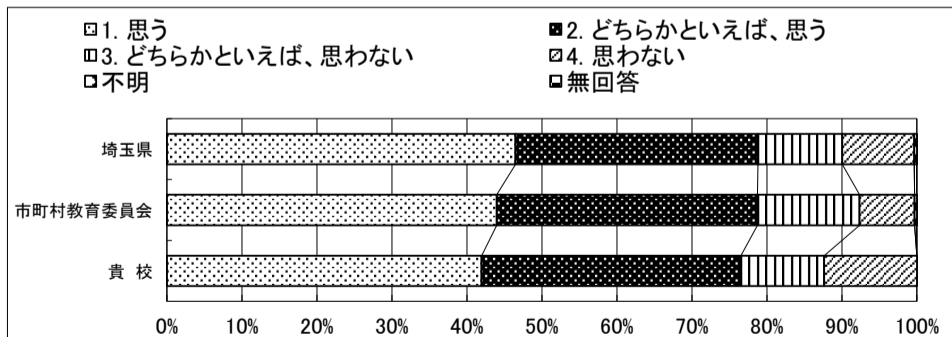
- ・正答率で県平均より高かった問題は、33問中15問であった。学力レベルは県・市平均より高かった。
- ・正答率が高かった問題は、「異分母のたし算」や「五角形の5つの角の和の求め方を説明する」などの問題で、県平均より20%近く高かった。「変化と関係」に関する問題は全ての問題で正答率が県より下回った。これは問題を読み取ることができていないということが言える。国語でも課題となっている読解力を身に付けていくことが大切である。「帯グラフと折れ線グラフの読み取りから数量を考える」では正答率が0%であった。最終問題であったため無答も多く、十分に考える時間が取れなかったと考えられる。

3, 児童質問紙調査より

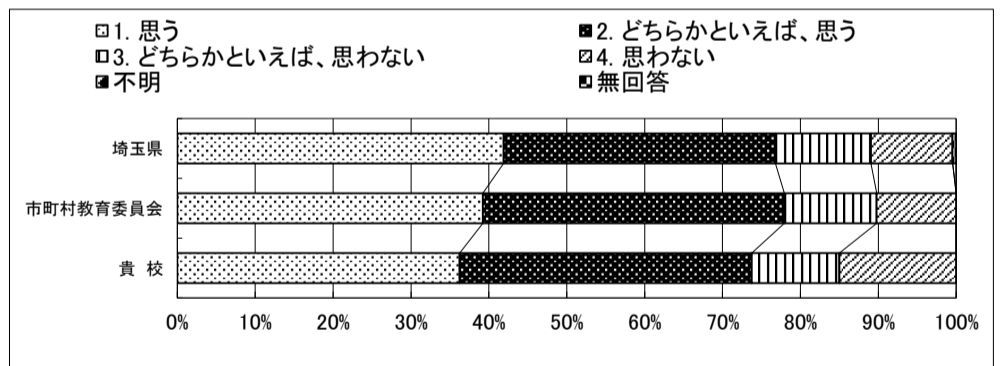
質問 「自分には、よいところがあると思いますか」



4年生



6年生



5年生

※4年生では、自分に自信を持てる児童が、埼玉県の平均に近づいている。しかし、5・6年生になると県・市の平均よりもやや下回る形となった。家庭や学校でも「やればできる!」「認めてもらえる」といった自己肯定感を高めることが課題だといえる。昨年からは教職員は、児童一人一人が自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していけるような授業や学級活動の研究をしている。自己有用感を高めていくことで、自己肯定感を高められると考えている。来年度以降は研究の効果が期待できる。

4, 総括

- ①引き続き45分間の授業を大切に、課題を明示して学習への児童の興味関心が高まるようにしていきます。
- ②どの子にも「わかる、できる」授業の工夫改善に今後も努めていきます。また、自信を持てるように励ましていきます。
- ③今年度の課題を生かした学習に取り組み、最後まであきらめずに問題を解決する態度と能力を育てます。
- ④日々の根気強い取り組みを通し、漢字・計算の習得率を上げます。
- ⑤ゲームやスマホ、インターネット等の使用時間を見直していただき、家庭学習や読書の時間が十分確保できるようにご協力をお願いします。

令和6年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校4年, 5年, 6年)

埼玉県平均より上回っている

埼玉県平均より下回っている

4年国語

	平均 正答率	R6小4 レベル (平均)
埼玉県	51.9	5-B
狭山市	48.7	5-C
南小	50.3	5-B

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	言葉の特徴や使い方	63.1	60.9	62.4
	情報の扱い方、我が国の言語文化	41.8	37.6	40.8
	話すこと・聞くこと、書くこと	45.5	42.2	44.2
	読むこと	39.9	34.8	33.9
評価の観点	知識・技能	55.8	53.2	55.4
	思考・判断・表現	45.9	42.0	42.5
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	56.5	54.0	54.4
	短答式	43.2	39.0	42.2
	記述式	51.5	45.1	52.6

4年算数

	平均 正答率	R6小4 レベル (平均)
埼玉県	62.6	4-A
狭山市	60.3	4-B
南小	60.0	4-B

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	数と計算	65.5	61.9	64.1
	図形	56.1	56.5	57.7
	測定	63.2	58.9	56.4
	データの活用	62.1	62.2	57.2
評価の観点	知識・技能	68.5	66.4	66.2
	思考・判断・表現	37.6	34.9	34.2
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	63.6	63.5	62.9
	短答式	64.7	60.0	60.3
	記述式	17.2	14.2	9.2

5年国語

	平均 正答率	R5小4 レベル (平均)	R6小5 レベル (平均)	令和5年度からの 同集団における 学力の伸び(平均)
埼玉県	56.9	6-C	6-B	1
狭山市	54.8	6-C	6-B	1
南小	58.4	6-C	6-A	2

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	言葉の特徴や使い方	65.1	64.4	69.2
	情報の扱い方、我が国の言語文化	53.1	51.2	61
	話すこと・聞くこと、書くこと	51.6	48.4	47.1
	読むこと	48.0	44.1	47.0
評価の観点	知識・技能	63.0	62.0	67.7
	思考・判断・表現	49.5	45.9	47.1
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	58.7	56.9	60.1
	短答式	52.3	50.1	55.3
	記述式	55.1	45.6	46.3

5年算数

	平均 正答率	R5小4 レベル (平均)	R6小5 レベル (平均)	令和5年度からの 同集団における 学力の伸び(平均)
埼玉県	53.4	5-C	5-B	1
狭山市	51.3	5-C	5-B	1
南小	55.8	5-B	5-A	1

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	数と計算	50.9	49.1	55.9
	図形	64.0	61.1	66.1
	測定	48.6	47.8	51.5
	データの活用	48.0	44.8	41.3
評価の観点	知識・技能	54.9	52.7	57.6
	思考・判断・表現	48.1	46.4	49.5
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	55.7	54.5	57.4
	短答式	53.4	50.5	57.5
	記述式	15.5	10.2	5.0

6年国語

	平均 正答率	R4小4 レベル (平均)	R5小5 レベル (平均)	R6小6 レベル (平均)	令和5年度からの 同集団における 学力の伸び(平均)
埼玉県	56.7	6-C	7-C	7-C	0
狭山市	55.0	6-C	7-B	6-A	-2
南小	54.7	6-C	7-C	6-A	-1

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	言葉の特徴や使い方	62.8	61.4	62.0
	情報の扱い方、我が国の言語文化	55.3	56.3	54.3
	話すこと・聞くこと、書くこと	52.1	49.5	50.9
	読むこと	49.4	47.0	44.9
評価の観点	知識・技能	61.9	60.8	61.1
	思考・判断・表現	50.4	47.9	47.0
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	56.7	55.2	55.4
	短答式	59.9	57.3	56.4
	記述式	35.7	32.0	27.2

6年算数

	平均 正答率	R5小4 レベル (平均)	R6小5 レベル (平均)	R6小6 レベル (平均)	令和5年度からの 同集団における 学力の伸び(平均)
埼玉県	56.5	5-A	6-C	6-B	1
狭山市	54.7	5-B	6-C	6-B	0
南小	58.4	5-B	6-B	6-A	2

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	数と計算	60.2	60.2	61.9
	図形	60.3	59.7	65.8
	測定	53.9	50.4	55.0
	データの活用	44.3	38.6	42.0
評価の観点	知識・技能	58.9	57.3	60.1
	思考・判断・表現	47.5	45.3	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	58.6	56.8	60.5
	短答式	52.8	51.0	54.6
	記述式	-	-	-